

第2章 地域の概況

第1節 地域の概況

1. 自然的要素

本広域は、木曽谷を中心として西に御岳山、東に木曽山脈が位置する、南北約 60km、東西約 50km に及ぶ広大な地域となっている。木曽谷に沿った山麓部の丘陵地、山地などから構成されており、地形は総じて急峻で平坦地は少なく、集落・市街地はその多くが木曽川やその支流沿いに形成されている。面積の 90%以上が森林、またそのうち 60%以上が国有林である。気候は冷涼で、豊かな自然を生かした観光・交流を特徴とする地域である。

2. 社会的要素

本広域は、平成 11 年 4 月に木曽福島町、上松町、南木曽町、楢川村、木祖村、日義村、開田村、三岳村、王滝村、大桑村、山口村の 3 町 8 村で発足して以来、広域管内のごみ処理事業を担ってきた。

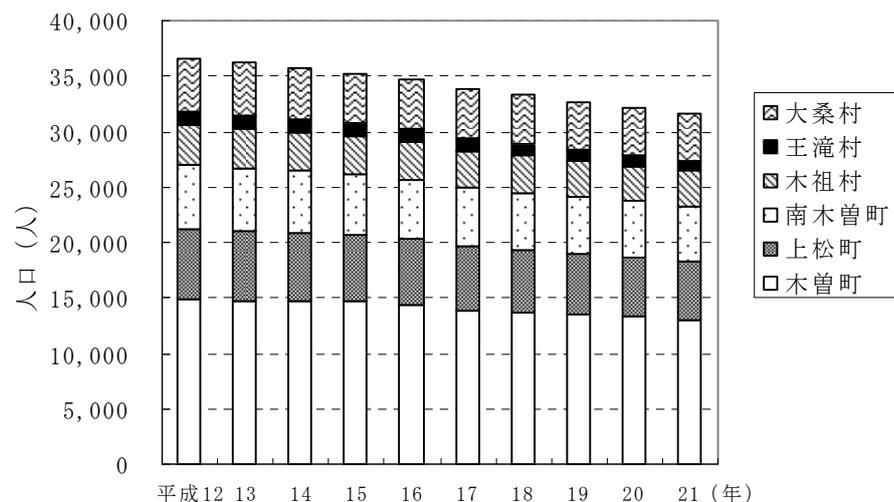
平成 17 年 2 月に山口村は岐阜県中津川市と合併し、平成 17 年 4 月には楢川村が塩尻市と合併したことにより、いずれも本広域から脱退した。平成 17 年 11 月には、木曽福島町、日義村、開田村、三岳村が合併して木曽町となったことにより、本広域の構成町村は 3 町 3 村となって現在に至っている。

第2節 人口動態

1. 人口の推移

本広域管内及び各町村の定住人口（外国人を含む）の推移を図 2.2.1 に示す。

本広域管内の人口は減少を続けている。いずれの町村の人口も減少の傾向にあり、平成 12 年から平成 21 年の 10 年間で 13.3%、1 年当たり約 540 人の減少となっている。



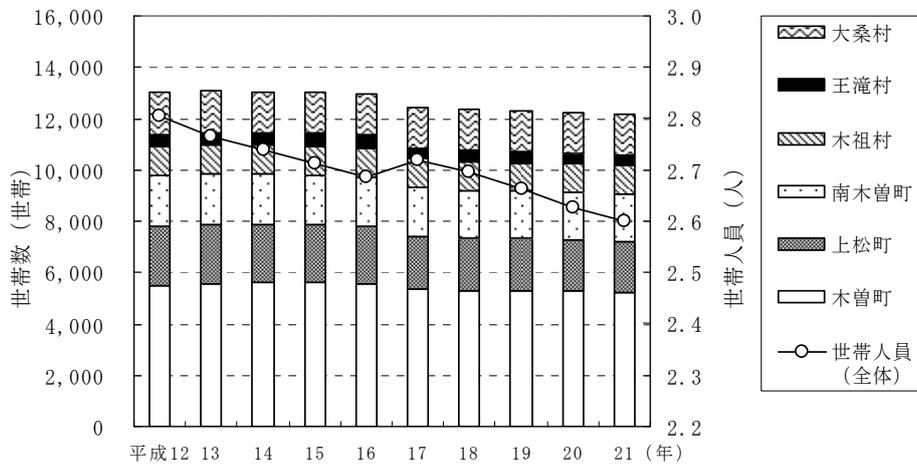
毎月人口異動調査、各年 10 月 1 日現在

図 2.2.1 人口の推移

2. 世帯数と世帯人員の推移

本広域管内及び各町村の世帯数と世帯人員の推移を図 2.2.2 に示す。

本広域管内の世帯数は、平成 13 年以降は減少を続けており、世帯人員も減少の傾向にある。世帯数は平成 12 年から平成 21 年の 10 年間で 6.4% の減少となっており、平成 21 年の世帯人員は、2.6 人である。



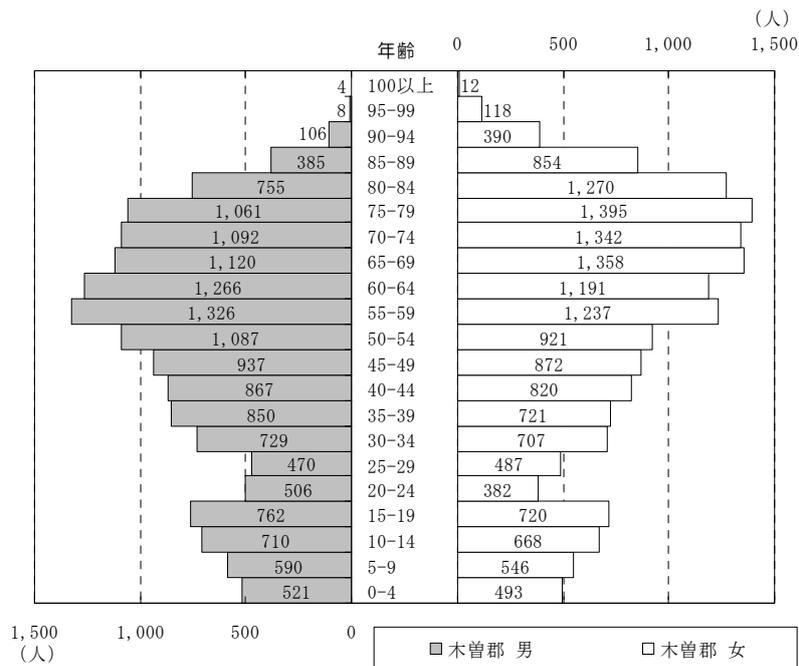
毎月人口異動調査、各年 10 月 1 日現在

図 2.2.2 世帯数と世帯人員の推移

3. 年齢、性別構造

本広域管内の年齢、性別構造を図 2.2.3 に示す。

男性では 55～59 歳人口が最も多く、50～79 歳人口の割合が高くなっている。女性では 75～79 歳人口が最も多く、男女共に 55～84 歳人口の割合が高くなっている。65 歳以上の高齢者が人口に占める割合は約 36%、15 歳未満の占める割合は約 11% となっており、少子高齢化が進んでいることを示している。



毎月人口異動調査、平成 21 年 10 月 1 日現在

図 2.2.3 本広域管内の年齢、性別構造

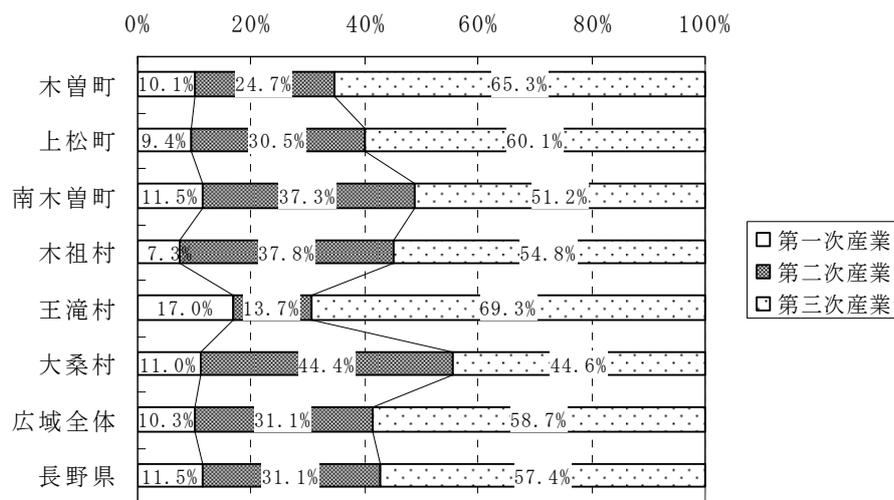
第3節 産業構造と動向

1. 産業構造

本広域管内の産業別の就業人口を図 2.3.1、表 2.3.1 及び表 2.3.2 に示す。

本広域全体では、第1次産業が1割、第2次産業が3割、第3次産業が6割の構成となっており、長野県全体と同様の割合となっている。町村別では、南木曽町、木祖村、大桑村は第2次産業の割合が高く、木曽町、王滝村は第3次産業の割合が高くなっている。

第2次産業では、木曽町と木祖村で建設業の割合が比較的高く、南木曽町と大桑村で製造業の割合が比較的高くなっている。第3次産業では、上松町、木祖村、大桑村で卸売・小売業の割合が比較的高く、南木曽町と王滝村で飲食業・宿泊業の割合が高くなっている。



国勢調査、平成17年度

図 2.3.1 産業別就業人口構成

表 2.3.1 第2次産業の構成割合

(単位：%)

第2次産業	長野県	広域全体	木曽町	上松町	南木曽町	木祖村	王滝村	大桑村
鉱業	0.3	1.7	2.0	0.2	2.5	0.4	5.9	2.5
建設業	25.7	38.9	52.7	40.5	25.8	53.5	34.1	22.7
製造業	74.0	59.4	45.3	59.3	71.7	46.1	60.0	74.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 2.3.2 第3次産業の構成割合

(単位：%)

第3次産業	長野県	広域全体	木曽町	上松町	南木曽町	木祖村	王滝村	大桑村
電気・ガス・熱供給・水道業	0.7	1.9	1.0	7.7	0.4	0.3	1.9	0.3
情報通信業	2.2	0.4	0.7	—	0.1	—	—	—
運輸業	5.1	4.8	5.1	6.8	4.7	2.7	0.7	3.5
卸売・小売業	29.0	23.4	22.4	27.2	22.3	26.5	12.2	27.5
金融・保険業	2.9	1.2	1.6	1.3	0.9	—	—	0.5
不動産業	2.0	0.7	0.5	1.1	1.7	0.6	—	0.2
飲食店、宿泊業	13.4	19.5	18.1	16.5	27.3	15.8	43.9	12.8
医療、福祉	13.7	14.8	14.1	16.4	15.4	17.8	9.5	15.4
教育、学習支援業	6.1	6.7	6.9	4.3	8.9	7.6	6.0	6.0
複合サービス事業	2.6	5.2	4.8	3.6	6.4	5.3	5.3	7.9
その他サービス業	18.0	14.0	16.6	10.1	5.6	14.4	9.5	19.9
公務	4.2	7.4	8.2	5.1	6.2	8.9	11.0	5.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

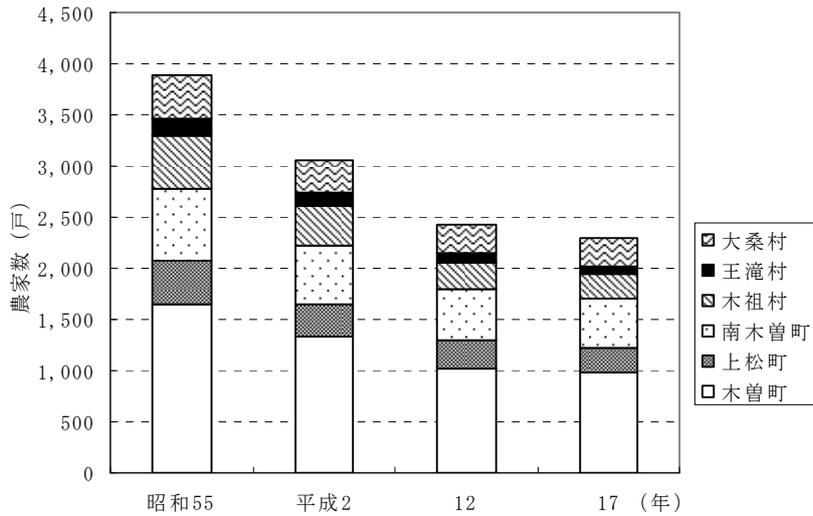
2. 農業・林業

本広域管内の農家数の推移を図 2.3.2 に、林家数の推移を図 2.3.3 に示す。

農家数、林家数ともに減少の傾向にある。

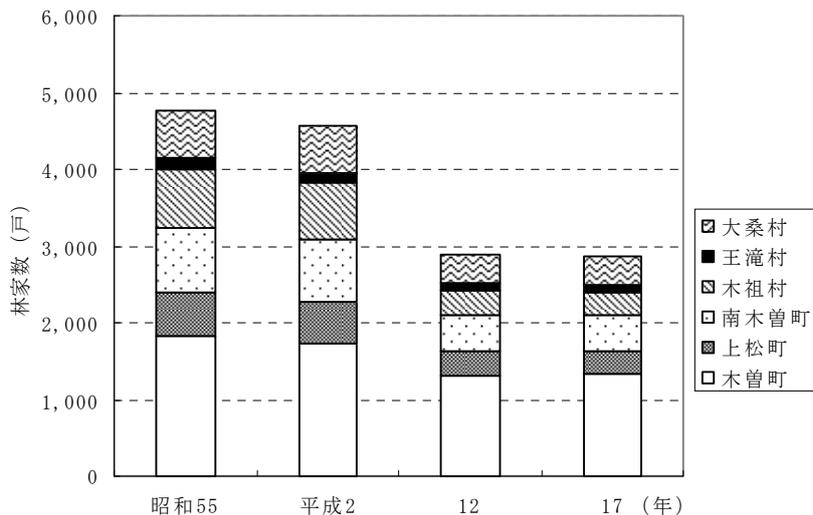
農業では、「御嶽はくさい」を中心にスイートコーン、さやいんげん等の野菜と「木曽牛」が主要な品目であるが、農業従事者の高齢化や担い手の不足による野生鳥獣被害の増加により、生産活動の低下、農地の遊休化が進んでいる。

林業では、森林資源が豊かで「木曽ヒノキ」の産地として有名であるが、輸入木材との競争による木材価格の低迷などにより、林業は不振が続いている。



農林業センサス

図 2.3.2 農家数の推移



農林業センサス

図 2.3.3 林家数の推移

3. 工業

本広域管内の事業所数の推移を図 2.3.4 に、製造品出荷額等の推移を図 2.3.5 に示す。

事業所数は平成 17 年以降減少の傾向にあるものの、上松町と大桑村の製造品出荷額等が増加しており、全体でも平成 17 年に比べて増加している。

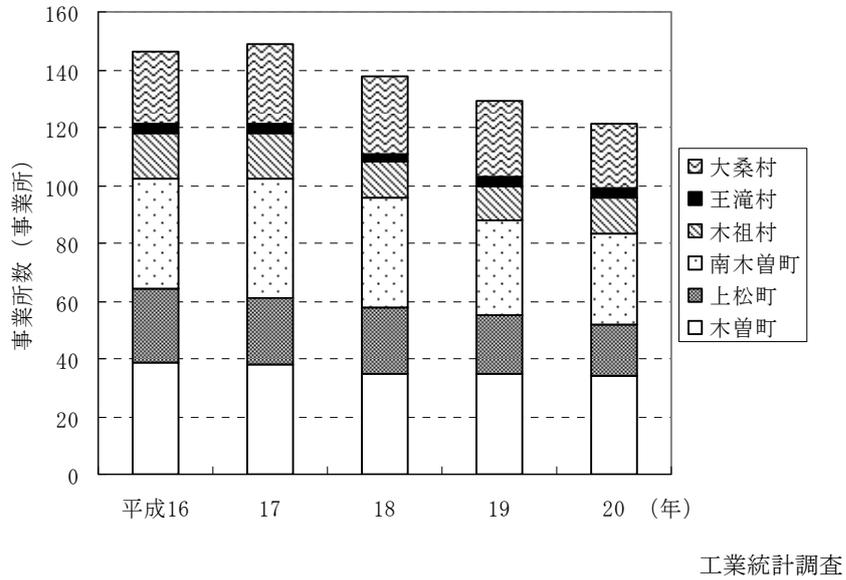


図 2.3.4 事業所数の推移

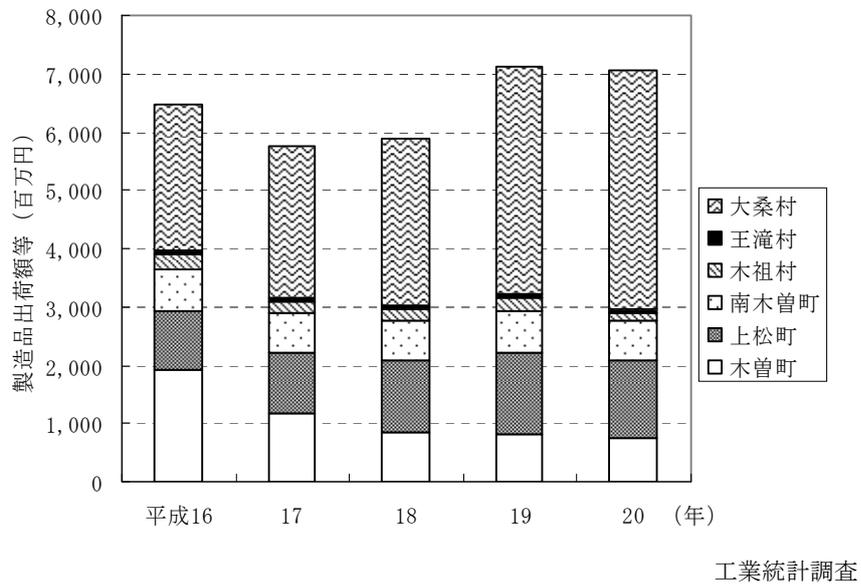
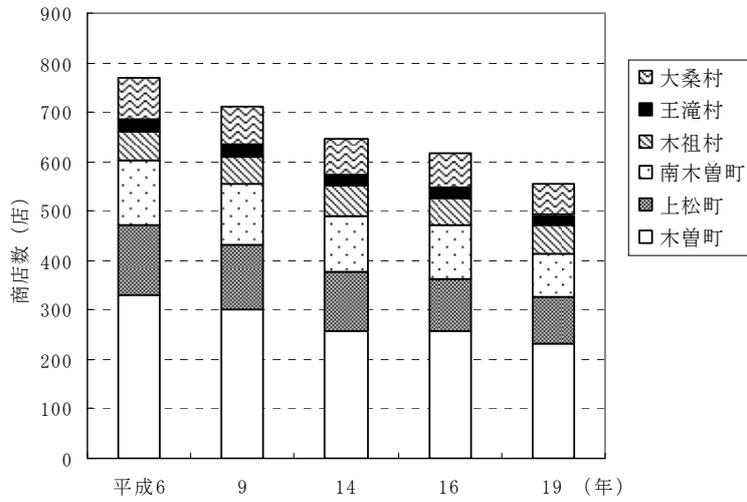


図 2.3.5 製造品出荷額等の推移

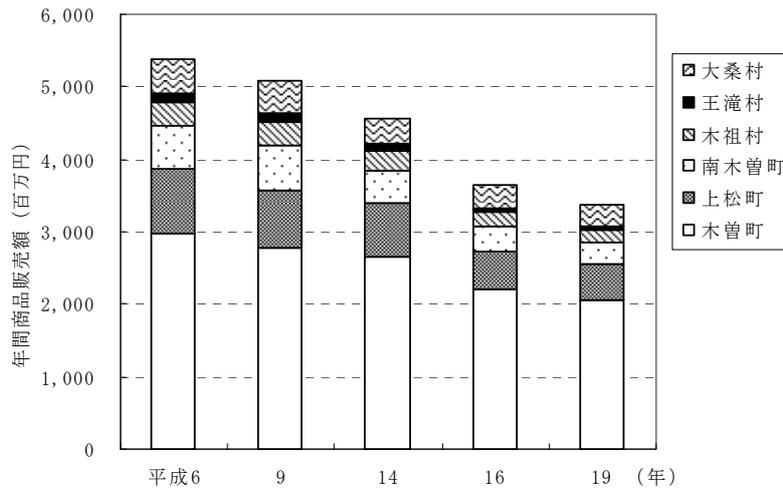
4. 商業

本広域管内の商店数の推移を図 2.3.6 に、年間商品販売額の推移を図 2.3.7 に示す。
商店数は減少の傾向にあり、年間商品販売数も低下の傾向にある。



商業統計調査

図 2.3.6 商店数の推移



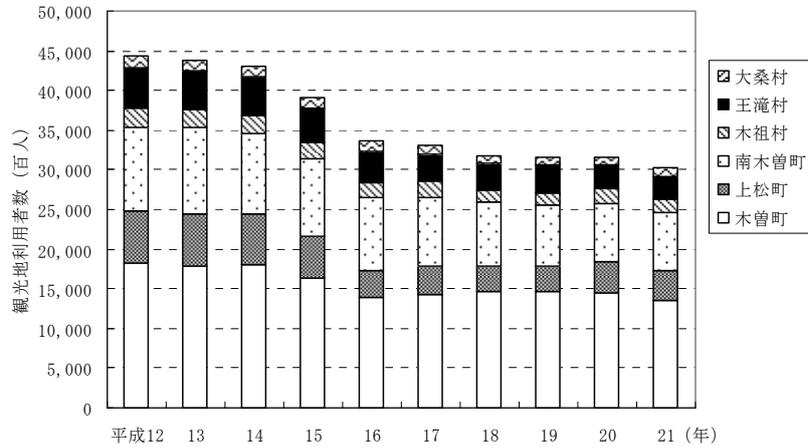
商業統計調査

図 2.3.7 年間商品販売数の推移

5. 観光

本広域管内の観光地利用者数の推移を図 2.3.8 に、スキー場利用者数の推移を図 2.3.9 に示す。

本広域は自然環境や歴史・文化遺産などに恵まれており、多くの観光地を有する観光・リゾート地域であるが、観光地利用者数は、減少の傾向にある。また、スキー場利用者数も低迷している。



長野県 観光地利用者統計

図 2.3.8 観光地利用者数の推移

表 2.3.3 木曽広域管内の主要な観光地

		観光地 (統計が行われたもの)
木曽町	旧木曽福島町	木曽駒高原、木曽福島
	旧日義村	木曽駒高原、徳音寺院
	旧開田村	開田高原、御岳山
	旧三岳村	御岳山、御嶽の里
上松町		寝覚ノ床、木曽の棧、中央アルプス木曽駒ヶ岳、赤沢自然休養林
南木曽町		田立の滝、妻籠宿、富貴畑高原温泉郷、柿其溪谷、南木曽山麓、南木曽温泉郷
木祖村		やぶはら高原、鳥居峠、奥木曽湖
王滝村		御岳山、御岳高原、王滝川溪谷
大桑村		定勝寺、鹿ノ湯、阿寺溪谷、伊奈川溪谷、のぞきど高原

長野県 観光地利用者統計

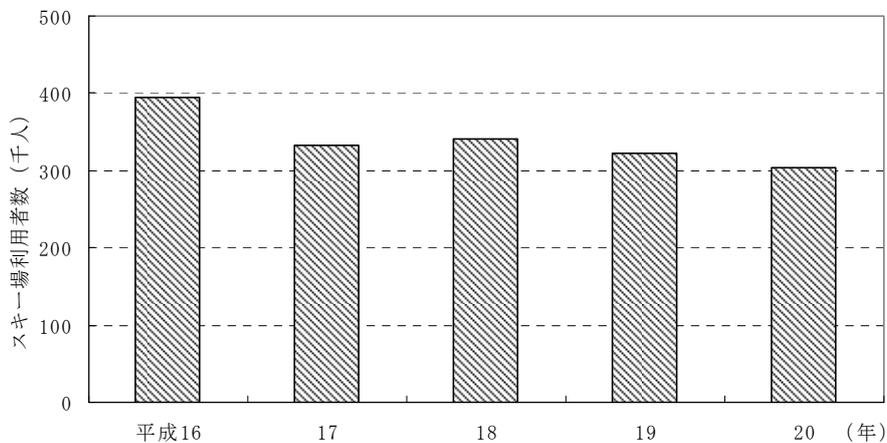


図 2.3.9 スキー場利用者数の推移

長野県木曽地方事務所